

第117回横浜市景況・経営動向調査（令和3年6月実施）（通常調査）

調査結果のまとめ

**自社業況BSIは、全産業でマイナス36.1と、前期より8.4ポイントの上昇
先行きについては、来期はほぼ横ばいで推移するも、再来期は上昇する見通し**

【調査のポイント】

- 今期（令和3年4-6月期）の自社業況BSI（※）は▲36.1と、前期（▲44.5）と比べて8.4ポイント上昇しました。
- 業種別では、**製造業の今期のBSIは▲35.1**と、前期（▲45.3）より10.2ポイント**上昇**しました。**非製造業の今期のBSIは▲36.7**と、前期（▲43.9）より7.2ポイント**上昇**しました。
- 規模別では、**大企業の今期のBSIは▲13.1**と、前期（▲34.1）より21.0ポイント**上昇**、**中堅企業の今期のBSIは▲25.3**と、前期（▲39.2）より13.9ポイント**上昇**しました。**中小企業のBSIは▲40.9**と、前期（▲47.2）より6.3ポイント**上昇**、また**中小企業のうち小規模企業のBSIは▲44.3**と、前期（▲50.4）より6.1ポイント**上昇**しました。
- 先行きについては、来期（令和3年7-9月期）の自社業況BSIは▲37.2、再来期（令和3年10-12月期）は▲31.4と、**来期はほぼ横ばいで推移するも、再来期は上昇する見通し**です。

【調査対象】市内企業 1,000 社（回収数：372 社、回収率：37.2%）

【調査時期】令和3年5月7日～6月8日（調査票回答期間及びヒアリング調査期間）

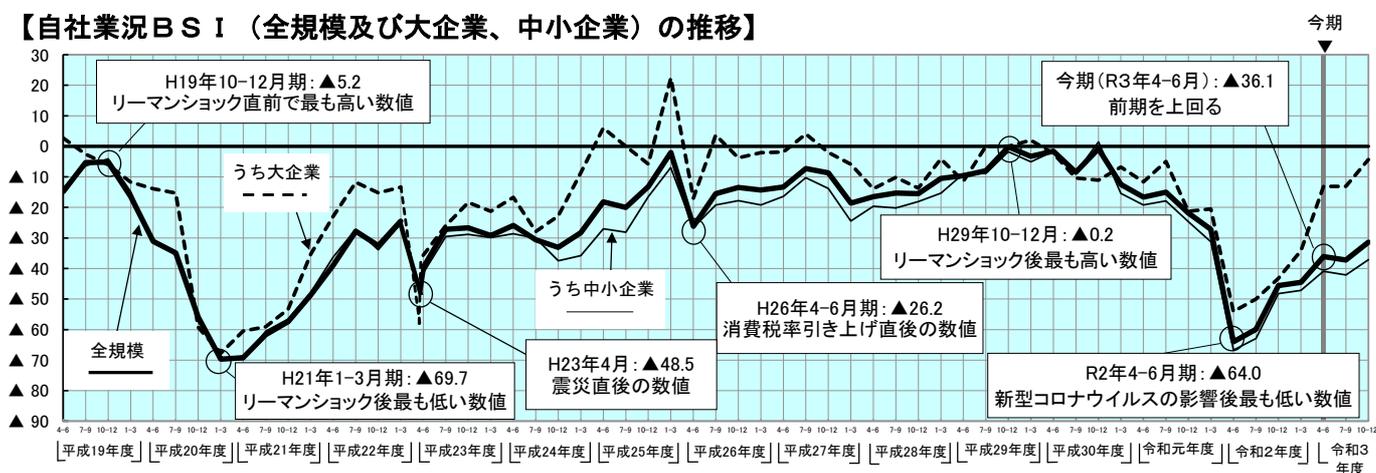
※調査票回答期間は令和3年5月7日～5月21日

※ BSI（Business Survey Index）：自社業況 BSI は、自社業況が「良い」と回答した割合から「悪い」と回答した割合を減じた値です。

【調査の概要】

1 自社業況判断（自社業況 BSI：良い%-悪い%）

【自社業況 BSI（全規模及び大企業、中小企業）の推移】



【自社業況BSI(業種別・規模別)の推移】

業種	規模	令和2年	令和2年	令和3年	令和3年	今期-前期	令和3年	令和3年
		7-9月期	10-12月期	1-3月期 (前期)	4-6月期 (今期)		7-9月期 (来期)	10-12月期 (再来期)
全産業		▲59.9	▲45.6	▲44.5	▲36.1	8.4	▲37.2	▲31.4
製造業		▲67.3	▲48.7	▲45.3	▲35.1	10.2	▲35.2	▲30.1
	非製造業	▲54.4	▲43.3	▲43.9	▲36.7	7.2	▲38.6	▲32.1
大企業		▲50.0	▲43.2	▲34.1	▲13.1	21.0	▲13.1	▲4.3
	中堅企業	▲52.0	▲34.9	▲39.2	▲25.3	13.9	▲26.7	▲18.6
	中小企業	▲62.9	▲48.2	▲47.2	▲40.9	6.3	▲42.1	▲37.1
	うち小規模企業	▲63.9	▲47.7	▲50.4	▲44.3	6.1	▲49.3	▲42.3

（注）令和3年7-9月期及び令和3年10-12月期は見通し。

【業種別動向】(前期:令和3年1月~3月期、今期:令和3年4月~6月期、来期:令和3年7月~9月期)

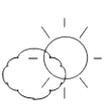
業種	前期	今期	来期	ヒアリング対象企業のコメント
食料品等	 ▲ 52.2 (▲ 58.8)	 ▲ 36.4 (▲ 44.5)	 ▲ 45.4 (▲ 55.6)	・飼料を製造・販売しているが、新型コロナによる影響はさほどなく、来期以降も業況に影響はないとみている。(配合飼料等の製造・販売) ・新型コロナ感染拡大の影響で人の動きが減ったため、飲食業の需要が落ち、それに応じて、砂糖の生産・販売量も減って売上が減っている。(食料品製造・販売)
鉄鋼・金属等	 ▲ 51.0 (▲ 52.0)	 ▲ 31.2 (▲ 31.2)	 ▲ 37.5 (▲ 37.5)	・4、5月は発注が多く、売上は平時の約1割増しだったが、新型コロナ感染拡大によるデジタル化の加速で、印刷機器関連の業務等に影響が出ている。(金属部品製造) ・生産は、前期に比べると戻ってきているが、新型コロナ感染拡大前には戻り切っていない。その状況がしばらく続きそうなので、来期業況は悪いと予想している。(自動車部品製造)
一般機械	 ▲ 39.1 (▲ 36.2)	 ▲ 41.2 (▲ 43.3)	 ▲ 29.4 (▲ 30.0)	・前半期に比べ売上・利益は改善しているが、例年と比べると減少している。新型コロナが大きく影響しているが、米中貿易摩擦の影響も受けている。再来期には新型コロナが落ち着き、景気が良くなるだろうとの観測でいる。(機械加工) ・受注は新型コロナ感染拡大以前に比べると、減少傾向にある。ワクチンの接種が進むことによって景気が良くなっていくのではないかと考えている。(工具の製造・販売)
電機・精密等	 ▲ 23.1 (▲ 20.0)	 ▲ 14.8 (▲ 13.7)	 ▲ 25.9 (▲ 27.3)	・今期、来期は例年通りの業況。取引先が設備投資を控え始めた傾向にあるとのことなどで、先行きは不透明。(電機) ・業態を変えるに伴う新規発注がいくつもあったことにより、売上は前年同期比約2割増だった。これからは、新規発注ではなく修繕が中心となる傾向。(精密機械)
輸送用機械	 ▲ 57.9 (▲ 46.1)	 ▲ 37.5 (▲ 57.1)	 ▲ 25.0 (▲ 42.8)	・昨年末くらいから受注が入るようになった。取引先も海外との取引が順調で、その影響で当社の生産も増加している。売上は昨年度の1.5倍、通期では2割増しになる見通し。今後も現在の状況が続く、来期、再来期も生産、売上ともに上昇していく見込み。(自動車関係)
建設業	 ▲ 27.1 (▲ 26.5)	 ▲ 23.3 (▲ 25.0)	 ▲ 30.0 (▲ 33.3)	・昨年は、新型コロナの影響で、現場を止めたり工期を延ばす等で業績に影響が出た。今期は、建設需要が回復しており業績は改善している。通期でも同様の見通し。 ・新型コロナの影響で、工事が効率的に行えず、施設設備投資も減り売上は減。コロナが収束すれば売上は戻ると感じているが、見通しが立たない。(いずれも建設業)
運輸・倉庫業	 ▲ 60.0 (▲ 66.7)	 ▲ 43.8 (▲ 50.0)	 ▲ 46.8 (▲ 57.7)	・新型コロナ感染拡大の影響により、テレワーク利用者が増え乗客が減少したため、昨年度に比べ売上は1割程度減少している。生産・売上について、前期と比較すると同程度である。(運送業) ・今期は新型コロナの影響により、海外での生産・出荷ができなくなり、国内生産・海外出荷に変更した取引先との業務が増え売上増。来期以降の業況は新型コロナにより左右される。(海運業)
卸売業	 ▲ 40.8 (▲ 45.1)	 ▲ 52.8 (▲ 61.5)	 ▲ 55.6 (▲ 61.5)	・国内需要が縮小し消費が弱まっている。小売業者が大型化することで産地との交渉力を強めている。仕入れと出荷の価格差の補填も影響し、業況は悪い。産地で新商品を増やしたり、値段交渉するなどできないため、この状況が続く見通し。 ・今年度業況は、昨年度よりは良い。だが、大型需要が減少し、新型コロナの収束が見えない中、回復の見通しは立たない。(いずれも卸売業)
小売業	 ▲ 46.3 (▲ 50.0)	 ▲ 46.2 (▲ 61.5)	 ▲ 46.2 (▲ 46.1)	・新型コロナ感染拡大により顧客が外出を控えているため、売上が減少している。緊急事態宣言が解除され、外出が自由になれば業績は戻ると考えるが、いつになるかは見通せない。(石材建設等) ・一昨年と比べると業況は悪いが、前年同月比では業況は良くなっている。(食品販売)
飲食店・宿泊業	 ▲ 100.0 (▲ 100.0)	 ▲ 100.0 (▲ 100.0)	 ▲ 90.9 (▲ 83.3)	・4、5月の売上は新型コロナ感染拡大以前と比べると2割だった。ワクチン接種が進み、夏ごろには少し業績は回復していくと思う。(飲食業) ・今期の売上は新型コロナ感染拡大以前と比べると、いまだに50%減以上の見込み。インバウンド需要損失の影響も極めて大きい。不採算店舗の閉店等を進めることによる人件費の抑制を行っている。(宿泊業)
不動産業	 ▲ 50.0 (▲ 60.0)	 ▲ 41.7 (▲ 40.0)	 ▲ 41.7 (▲ 40.0)	・昨年4~6月の業況は悪かったが、それ以降は良くも悪くもない状況が続いている。今後もこの状況が続く見通している。 ・新規入居の問い合わせが減っている他、貸し会議室のキャンセルも多くなる。新型コロナの状況に好転の兆しが見られないことから、今後の見通しは良くない。(ともに不動産業)
情報サービス業	 ▲ 23.3 (▲ 16.6)	 ▲ 10.7 (▲ 16.6)	 ▲ 7.2 (▲ 8.3)	・今期は、新型コロナ感染拡大の影響により、工事を延期していたものが完了したため、業況は良いとした。 ・開発から保守まで長期にわたり契約しているため、新型コロナ感染拡大による影響はない。感染拡大防止対策として、テレワークを導入し、社員の4割程度が実施している(いずれもシステム開発)
対事業所サービス業	 ▲ 31.6 (▲ 26.3)	 ▲ 29.0 (▲ 26.7)	 ▲ 29.0 (▲ 33.4)	・4月は新型コロナ感染拡大の影響もあってか、派遣登録者数も昨年度に比べ相当数減少し、派遣紹介数も減少した。売上も減少したが、現在では人材登録者数は増加しつつあり、安定に向かっていくように思われる。(人材派遣会社) ・6月まで建設会社からの引き合いが多くあり、業況は良い。(リサイクル業)
対個人サービス業	 ▲ 48.1 (▲ 61.9)	 ▲ 11.1 (▲ 25.0)	 ▲ 23.5 (▲ 45.5)	・新型コロナの影響から、マリッジの人気の高まっている。免許を取得する人が増えており、レンタルボートの利用も増えている。全国的に同じ傾向のようである。(船舶関連施設) ・新型コロナ感染拡大の影響で屋外レジャーの利用者が増えている。売上も前年同期比約1割増。これからは利用者定着が必要になる。(レジャー施設)

※BSI=自社業況「良い」%-自社業況「悪い」%

※今期の BSI (全規模) が前期よりも 10 ポイント以上差がある業種については、矢印を表記している。

※表中の見方は右図の通り。

	← 天気マーク(下図参照)
▲ 5.8	← 全規模のBSI値
(▲ 22.2)	← 中小企業のBSI値

BSI	▲60.1以下	▲60.0~▲40.1	▲40.0~▲20.1	▲20.0~▲5.1	▲5.0~5.0	5.1~20.0	20.1以上
天気							

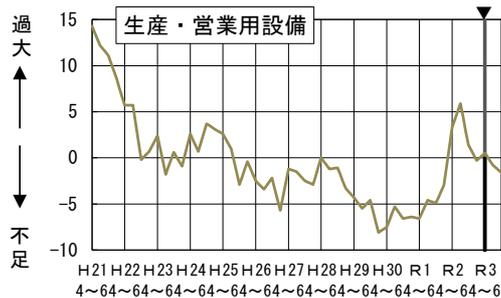
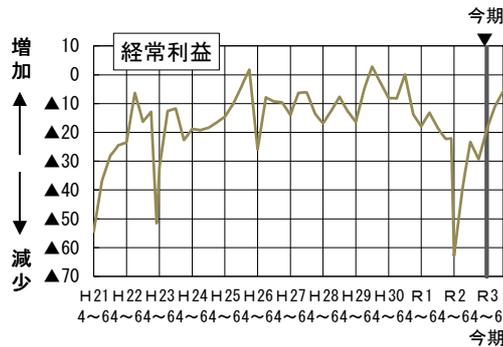
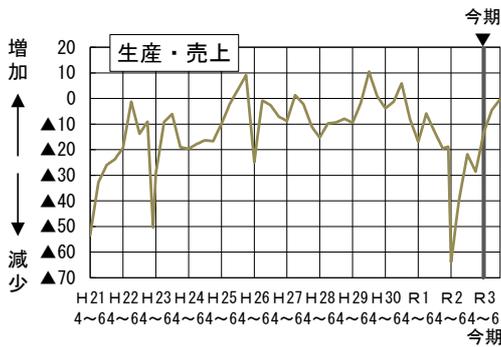
2 主要項目の推移

【主要項目(全産業)の推移】

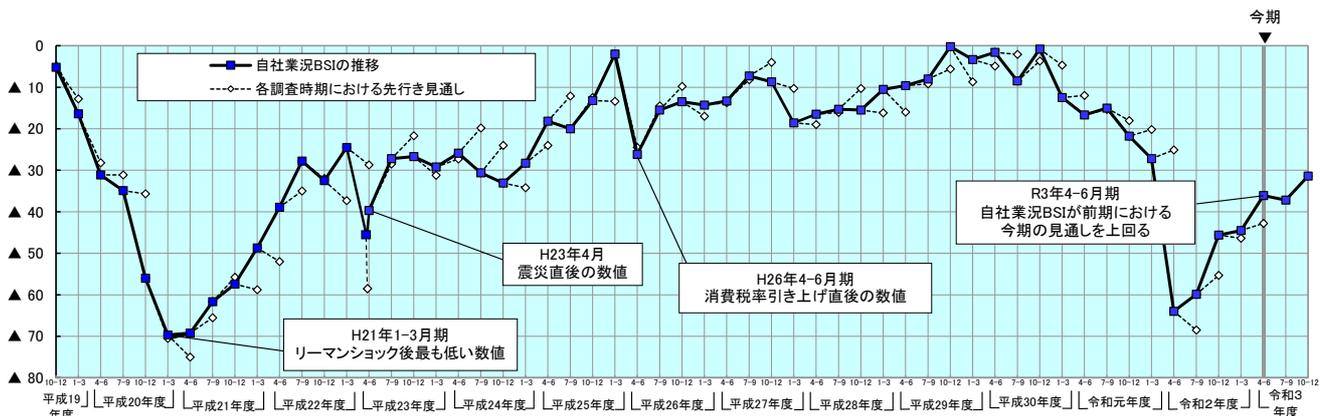
	令和2年 7-9月期	令和2年 10-12月期	令和3年 1-3月期 (前期)	令和3年 4-6月期 (今期)	今期-前期	令和3年 7-9月期 (来期)	令和3年 10-12月期 (再来期)
	自社業況	▲59.9	▲45.6	▲44.5	▲36.1	8.4	▲37.2
(1)生産・売上	▲39.6	▲21.8	▲28.5	▲13.4	15.1	▲4.4	▲0.3
(2)経常利益	▲40.0	▲23.3	▲29.3	▲19.0	10.3	▲11.1	▲5.7
(3)資金繰り	▲18.4	▲8.8	▲15.6	▲3.8	11.8	▲8.6	
(4)雇用人員	0.5	▲8.3	▲11.1	▲12.7	▲1.6	▲14.4	
(5)生産・営業用設備	5.9	1.4	▲0.3	0.5	0.8	▲0.8	▲1.6

(注) 令和3年7-9月期及び令和3年10-12月期は見通し。

(3) 資金繰り及び(4) 雇用人員については、令和3年10-12月期の見通しは調査対象外としている。



【自社業況BSI及び直近の各調査時期における先行き見通しとの比較】



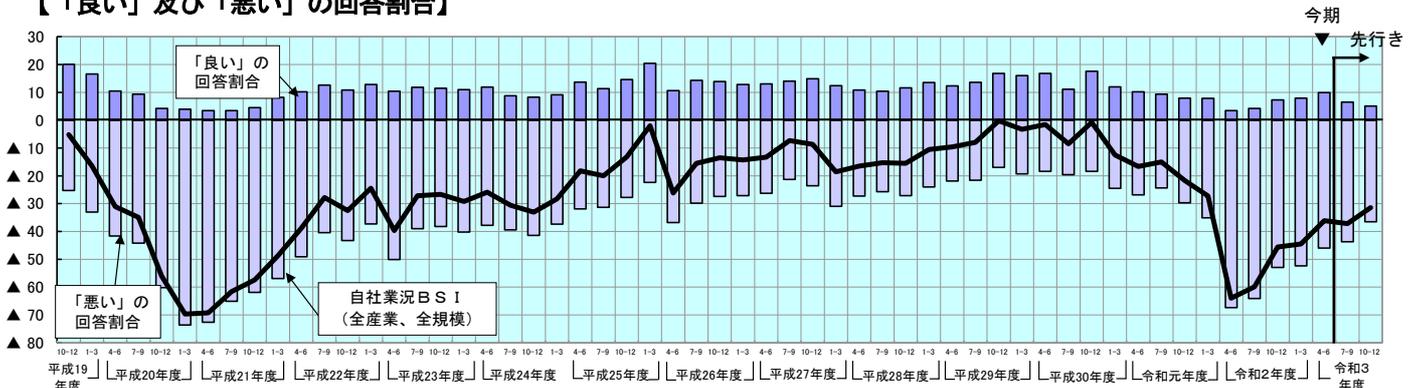
(参考資料) 自社業況BSI (業種別・規模別の推移)

	令和3年	令和3年	4-6月の回答の割合%	4-6月の回答の割合%			令和3年	令和3年	回答 企業数
	1-3月期	4-6月期		今期-前期	良い	普通	悪い	7-9月期	
全産業	▲ 44.5	▲ 36.1	8.4	9.9	44.1	46.0	▲ 37.2	▲ 31.4	372
製造業	▲ 45.3	▲ 35.1	10.2	14.2	36.5	49.3	▲ 35.2	▲ 30.1	148
食料品等	▲ 52.2	▲ 36.4	15.8	9.1	45.5	45.5	▲ 45.4	▲ 36.4	11
繊維・衣服等	▲ 57.1	▲ 66.7	▲ 9.6	0.0	33.3	66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	6
印刷	▲ 69.2	▲ 80.0	▲ 10.8	10.0	0.0	90.0	▲ 60.0	▲ 60.0	10
石油・化学等	▲ 50.0	▲ 27.3	22.7	0.0	72.7	27.3	▲ 36.4	▲ 36.4	11
鉄鋼・金属等	▲ 51.0	▲ 31.2	19.8	18.8	31.3	50.0	▲ 37.5	▲ 28.2	32
一般機械	▲ 39.1	▲ 41.2	▲ 2.1	8.8	41.2	50.0	▲ 29.4	▲ 30.3	34
電機・精密等	▲ 23.1	▲ 14.8	8.3	22.2	40.7	37.0	▲ 25.9	▲ 18.5	27
輸送用機械	▲ 57.9	▲ 37.5	20.4	12.5	37.5	50.0	▲ 25.0	▲ 12.5	8
その他製造業	▲ 40.0	▲ 22.3	17.7	33.3	11.1	55.6	▲ 22.2	▲ 12.5	9
非製造業	▲ 43.9	▲ 36.7	7.2	7.1	49.1	43.8	▲ 38.6	▲ 32.1	224
建設業	▲ 27.1	▲ 23.3	3.8	0.0	76.7	23.3	▲ 30.0	▲ 20.0	30
運輸・倉庫業	▲ 60.0	▲ 43.8	16.2	12.5	31.3	56.3	▲ 46.8	▲ 46.9	32
卸売業	▲ 40.8	▲ 52.8	▲ 12.0	2.8	41.7	55.6	▲ 55.6	▲ 44.4	36
小売業	▲ 46.3	▲ 46.2	0.1	3.8	46.2	50.0	▲ 46.2	▲ 30.8	26
飲食店・宿泊業	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	▲ 90.9	▲ 81.8	11
不動産業	▲ 50.0	▲ 41.7	8.3	0.0	58.3	41.7	▲ 41.7	▲ 25.0	12
情報サービス業	▲ 23.3	▲ 10.7	12.6	14.3	60.7	25.0	▲ 7.2	▲ 3.6	28
対事業所サービス業	▲ 31.6	▲ 29.0	2.6	9.7	51.6	38.7	▲ 29.0	▲ 29.1	31
対個人サービス業	▲ 48.1	▲ 11.1	37.0	16.7	55.6	27.8	▲ 23.5	▲ 27.8	18

BSI (Business Survey Index)は、景気の強弱感を次の算式により求めている。BSI = 良い% - 悪い%

	令和3年	令和3年	4-6月の回答の割合%	4-6月の回答の割合%			令和3年	令和3年	回答 企業数
	1-3月期	4-6月期		今期-前期	良い	普通	悪い	7-9月期	
全産業	▲ 44.5	▲ 36.1	8.4	9.9	44.1	46.0	▲ 37.2	▲ 31.4	372
大企業	▲ 34.1	▲ 13.1	21.0	13.0	60.9	26.1	▲ 13.1	▲ 4.3	23
中堅企業	▲ 39.2	▲ 25.3	13.9	8.0	58.7	33.3	▲ 26.7	▲ 18.6	75
中小企業	▲ 47.2	▲ 40.9	6.3	10.2	38.7	51.1	▲ 42.1	▲ 37.1	274
うち小規模企業	▲ 50.4	▲ 44.3	6.1	10.1	35.4	54.4	▲ 49.3	▲ 42.3	79
製造業	▲ 45.3	▲ 35.1	10.2	14.2	36.5	49.3	▲ 35.2	▲ 30.1	148
大企業	▲ 38.5	20.0	58.5	20.0	80.0	0.0	20.0	20.0	5
中堅企業	▲ 46.1	▲ 12.5	33.6	25.0	37.5	37.5	▲ 12.5	▲ 12.5	8
中小企業	▲ 45.7	▲ 38.6	7.1	13.3	34.8	51.9	▲ 38.5	▲ 33.0	135
うち小規模企業	▲ 53.2	▲ 48.2	5.0	11.1	29.6	59.3	▲ 50.0	▲ 43.4	54
非製造業	▲ 43.9	▲ 36.7	7.2	7.1	49.1	43.8	▲ 38.6	▲ 32.1	224
大企業	▲ 32.2	▲ 22.2	10.0	11.1	55.6	33.3	▲ 22.2	▲ 11.1	18
中堅企業	▲ 38.0	▲ 26.8	11.2	6.0	61.2	32.8	▲ 28.3	▲ 19.4	67
中小企業	▲ 48.7	▲ 43.2	5.5	7.2	42.4	50.4	▲ 45.6	▲ 41.0	139
うち小規模企業	▲ 45.2	▲ 36.0	9.2	8.0	48.0	44.0	▲ 48.0	▲ 40.0	25

【「良い」及び「悪い」の回答割合】



◎報告書掲載 URL <https://www.city.yokohama.lg.jp/business/kigyoshien/tokei-chosa/keikyou.html>

問合せ先		
経済局政策調整部企画調整課長	高橋 正海	Tel 045-671-2565
横浜商工会議所企画調査担当課長	牧畑 昌明	Tel 045-671-7433